

社会資本整備審議会 道路分科会 北陸地方小委員会
(平成22年度 第1回)

議事概要

1. 日 時 平成22年12月16日(木) 10:00~12:00

2. 場 所 長岡国道事務所 4階 大会議室

3. 出席者

[委員長]

まるやま きゆういち 丸山 久一 長岡技術科学大学 環境・建設系 教授

[委員] 敬称略・五十音順

いしぐろ あつこ 石黒 厚子 (財)北陸経済研究所地域開発部 主任研究員
おおかわ ひでお 大川 秀雄 新潟大学 工学部長
さの かずし 佐野 可寸志 長岡技術科学大学 環境・建設系 准教授
なかやま しょういちろう 中山 晶一朗 金沢大学 理工研究域 環境デザイン学系 准教授
はやし きよみ 林 紀代美 金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 准教授
まるやま ゆか 丸山 結香 (有)MAX・ZEN Performance Consultants 代表取締役

4. 議 事

(1) 挨拶

・北陸地方整備局長

(2) 審議

・事務局より説明された北陸地方小委員会運営規則(案)は、了承する。

(3) 主な意見

・ミッシングリンク、交通安全、渋滞対策などの課題に対し、どのような成果を求めているのか、また、北陸は災害が多く、高齢化や中山間地の課題もあり、優先的に対応するものは何か検討すべきである。

- ・ 全国一律の評価ではなく、地域の実情にあった優先度が必要であり、この小委員会で検討すべきである。
- ・ 国全体を踏まえ北陸の生活の向上のためにはどうしていくのかを議論し、訴えていく必要がある。
- ・ ミッシングリンクの整備には県道や市道など他の道路と連携しながら進めてほしい。
- ・ ミッシングリンクの対応については、併行している国道の整備を遅らすなど重点的な投資が必要と考える。
- ・ ミッシングリンクの解消は重要であるが、整備に当たっては、他の道路の整備状況や鉄道の整備状況など、全体をみて進めるべきであり、例えば、鉄道のない地域はより重要であると考ええる。
- ・ 高速道路の暫定2車線は死亡につながる事故が多い。特に北陸は降雪や凍結があるので、中途半端な対応かもしれないが中央分離帯は固いもので整備すべきである。
- ・ 高速道路の幅員を少し広げると3車線運用ができる。暫定2車線よりは安全性も含め良いものができると思う。
- ・ 国、県、市町村と道路管理者が複数あるが、地域からみると道路はひとつなので、非効率にならないよう連携をとってほしい。
- ・ 国、県、市町村でそれぞれ対応すべき課題があり、整備を進めていると思うが、コミュニケーションをしっかりとるべきである。
- ・ 短い区間の単位で道路事業を進めている場合があり、全体を示して整備を進めるべきである。
- ・ 国全体の発展を考え、国が直接整備すべき道路があり、それ以外のところを県、市町村が国と連携をとりながら進めることが必要である。このためには、透明性を高め、しっかりと説明を今後していくべきである。
- ・ 道路も含め社会基盤整備は20年30年後を考えた対応が必要となる。目先のことだけではなく長期的な観点から検討していく必要がある。